



ZF LifeGuard Fluid 9

項目 1: 化学品及び会社情報

製品識別子

商号

ZF LifeGuard Fluid 9

記事なし

AA01.500.001

推奨用途及び使用上の制限

製品タイプ

混合物

使用

トランスミッションオイル。

での使用には適していません

この製品の使用、取り扱い、適用は製造会社のマニュアル、告知、およびその他の文書に記載されている要件に従ってください。この物質は、専門家の助言なしに推奨される目的以外で使用することはできません。

安全データシートの供給業者の詳細

SDSによって作成された

Global Division B Product Compliance Mgmt. System (BWC)

サプライヤー

ZF Japan Co., Ltd.

アドレス

Teisan Kannai Building
Yamashita-cho 209, Naka-ku
Kanagawa
231-0023 Yokohama
日本

電話

+81 45 211 6895

メール

msds.zf-aftermarket@zf.com

サイト

www.zf.com/contact



ZF LifeGuard Fluid 9

連絡窓口

Global Division B Product Compliance Mgmt. System (BWC)

メール

msds.zf-aftermarket@zf.com

緊急連絡電話番号 (受付時間)

+49) 89 19 240; 119

営業時間外利用可能

はい

項目2: 危険有害性の要約

物質または混合物の分類

JIS Z 7252:2019に基づく分類

分類

水生環境有害性 短期（急性）区分3

危険有害性情報

H402

ラベル要素

危険有害性情報

H402 水生生物に有害

注意書き

P273 環境への放出を避けること。

P501 内容物 / 容器を 認可された治療施設 に廃棄す ること。

さらに詳しい情報

絵表示又はシンボル: 危険記号は不要である。

応急措置: 注意喚起語なし。

保管: 注意喚起語なし。

他の危険有害性

適切に洗浄せずに長期または繰り返し皮膚と接触させると、皮膚の毛穴を塞ぎ、油性ざ瘡および毛囊炎などの障害をもたらすことがあります。性ざ瘡および毛囊炎などの障害をもたらすことがあります。引火性とは分類されませんが、燃焼します。



ZF LifeGuard Fluid 9

項目3: 組成及び成分情報

混合物

化学名	CAS番号	濃度	分類	H-フレーズ 急性Mファクター 慢性Mファクター	特定濃度限界値 急性毒性推定値	注意
互換性のある低粘度ベースオイル (<20.5 cSt @40°C) *	-	0 - 90%	Asp. Tox. 1	H304 - -		-
アルキルアセトアミド	-	1 - 3%	Skin Sens. 1B	H317 - -		Trade secret
スルホン酸カルシウム	-	0.1 - 0.99%	Skin Sens. 1B	H317 - -		-
エトキシ化アミン	61791-44-4	0.025 - 0.099%	Acute Tox. 4 - oral, Skin Corr. 1C, Aquatic Acute 1, Aquatic Chronic 1	H302, H314, H400, H410 - -		-

積に基づいて

化学名又は一般名: 合成基油および添加物。

高度に精製された鉱油。

IP346によると、高度に精製された鉱油は、重量比3%未満のDMSO抽出物を含有します。

高度に精製された鉱油は、添加剤希釈液としてのみ含Lします。

DMSO抽出物含有量 < 3%に基づく分類(規則(欧州共同体) 1272/2008附則VI、パート3、注L)

* 以下の CAS 番号 を 1 つ以上含みます: 64742-53-6, 6474 2-54-7, 64742-55-8, 64742-56-9, 64742-65-0, 68037-01-4, 72623-86-0, 7262 3-87-1, 8042-47-5, 848301-69-9, 68649-12-7, 151006-60-9, 163149-28-8, 64741-88-4, 64741-89-5。

物質追加情報

省略記号の説明はセクション 16 を参照する。



ZF LifeGuard Fluid 9

項目4: 応急措置

応急処置の解説

吸入した場合

通常の使用条件下では治療は必要ありません。症状が続く場合は、医師に相談すること。

皮膚に付着した場合

汚染された衣服を脱ぐこと。暴露面を水で洗い流し、その後、可能なら石鹸で洗うこと。
刺激が持続する場合は、医師の診察をうけてください。

眼に入った場合

大量の水で眼を洗い流してください。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
刺激が持続する場合は、医師の診察をうけてください。

飲み込んだ場合

飲み込んだ量が多くなければ、一般には治療不要であるが、医師の診察を受けること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

油性さ瘡/毛嚢炎の徴候および症状には、曝露した皮膚上に形成される黒色の膿疱および斑点が含まれます。
摂取すると、吐き気、嘔吐、または下痢が生じる恐れがあります。

何らかの即時の手当および特別な治療が必要とされることの表示

応急措置をする者の保護：救急処置を行う場合は、事故や怪我、周囲の環境に応じて個人用保護具を必ず着用してください。
医師に対する特別な注意事項：対処療法を行うこと。

項目5: 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

泡消火剤、水または噴霧。小規模火災の場合のみ粉末消火剤、二酸化炭素、砂または土の使用可。

使ってはならない消火剤

ジェット水を使用しないこと。



ZF LifeGuard Fluid 9

物質または混合物から生じる特別な危険有害性

有害な燃焼生成物は以下を含有しうる:
浮遊性の固形/液体の粒子状物質とガスの複合混合物 (煙)。
不完全燃焼が起こると、一酸化炭素が発生しうる。
未確認の有機および無機化合物。

消防士に対する助言

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

化学的耐性のある手袋などの適切な保護具を着用し、物質の流出による広範囲に及ぶ接触が予想される場合には化学的耐性のある衣服も着用してください。密閉空間で火気に接近する際は、自給式呼吸器を着用してください。関連基準 (欧州の場合: EN469) に基づいて承認された消防服を選択してください。

特有の消火方法: 現場の状況と周辺環境に応じて適切な消火手段を用いる。

項目6: 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

皮膚および目への接触を避けること。

環境に対する注意事項

流出が著しく回収できない場合は、地方自治体に通報する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

こぼすと滑り易くなります。事故を避けるため、直ちに清掃してください。
砂、土または他の封じ込め材料で障壁を作り、拡散を防止する。
液体は、直接回収するか、吸収材で回収してください。
粘土、砂のような吸収性物質またはその他適切な材料で残留物を吸い取り、適正に処理する。

他のセクションを参照

保護具の選択についての指針は、この製品安全データシート (SDS) の第8項を参照すること
漏洩物質の廃棄に関するガイダンスについては、このSDSの第13項を参照。



ZF LifeGuard Fluid 9

項目7: 取扱い及び保管上の注意

安全に取扱うための注意事項

予防取り扱い上の注意

技術的対策: 蒸気、霧、またはミストを吸入する危険性がある場合、局所的に換気を行ってください。

この物質の安全な取り扱い、保管および廃棄を適切に行うための管理方法を決定する際、支援材料として現地環境のリスク評価へ入力するデータとして、このデータシートの情報を利用する。

安全取扱注意事項: 長時間または繰り返し皮膚に接触させないでください。蒸気および / またはミストの吸入を避ける。

ドラム缶内の製品を取扱う際は、安全な履物を着用し、適切な取扱器具を使用する。

火災を防ぐために、汚染された衣服または洗浄用材料を適切に廃棄処分する。

顔面の保護具: 材料取扱い時に飛沫が眼に入る可能性がある場合には眼用の保護装具を用いることが推奨される。

製品輸送: 静電気蓄積防止のためバルク転移作業時、適切な接地及び結合手順を利用してください。

あらゆる配合禁忌を含む、安全な保管条件

容器は確実に密閉し、十分に換気された涼しい場所に保管してください。

適切にラベルを貼付した密閉可能な容器を使用してください。

常温で保管。

接触回避などを記載する: 強酸化剤。

安全な容器包装材料: 適した材質: 容器または容器の裏装には、軟鋼または高密度ポリエチレンを使用してください。

適さない材質: P V C

容器に関する注意: ポリエチレン容器は、歪曲する危険があるため、高温にさらさないでください。

特定の最終用途

データがありません

項目8: ばく露防止及び保護措置

管理濃度

暴露限界

作業環境における成分別暴露限界/許容濃度

生物学的職業暴露限度: この物質に関する生物学的限界値(BLV)は確定していない。

国家職業ばく露限界値



ZF LifeGuard Fluid 9

成分	CAS番号 EC号	暴露限度 ppm / mg/m ³	ソース	発言	年
鉱物油ミスト	- -	- / 3	日本産業衛生学会（許容濃度）	OEL-M (ミスト); 詳細情報: 発がん以外の健康影響を指標として許容濃度が示されている物質. III. 発がん性分類の前文参照, 発がん物質, 「第1群」はヒトに対して発がん性があると判断できる物質である. この群に分類される物質は, 疫学研究からの十分な証拠がある.	-
鉱物油ミスト	- -	- / 5	OSHA Z-1	TWA (ミスト)	-
鉱物油ミスト	- -	- / 5	ACGIH	TWA (吸入濃度)	-

暴露の管理

適切なエンジニアリング管理

必要な保護レベルと管理のタイプは、潜在的な曝露条件によって異なる。現地環境のリスク評価に基づいて管理方法を選択する。適切な方法には、以下のものがある。

適切な換気を行って空气中濃度を抑えること。

製品を加熱するか、噴霧するか、または霧生成させる場合、空气中濃度を上昇させる潜在性が高い。

一般情報

安全な取り扱いや制御装置のメンテナンスの手順を明確に定めてください。

本製品を用いた通常業務に伴う危険性とその管理手順について、作業員に対する教育およびトレーニングを実施してください。

暴露管理に用いる装置（個人用保護具や局所排気装置）が適切なものであるか、またこれらに対し適切なテストやメンテナンスが行われているか確認してください。

システムの慣らし運転や保守の前には、システムからすべての液体を排出させてください。

システムを液体を排出した状態に保ち、排出した液体はリサイクルあるいは廃棄まで密封できる保管容器に入れてください。

素材の取扱い後や飲食・喫煙の前に手を洗うなど、常に身の回りの正しい衛生措置を実行するようにしてください。汚染物質を除去するため、作業衣や保護具は定期的に洗浄します。汚染され、かつ洗浄が不可能な衣類や履物は廃棄してください。適切な清掃管理を行ってください。

監視方法:

職業暴露限度の遵守と曝露制御の妥当性を図るためには、作業者が呼吸する場所や一般的な職場の



ZF LifeGuard Fluid 9

物質濃度をモニタリングする必要があると考えられる。一部の物質については、生物学的なモニタリングが適している場合もある。

検証済みの暴露測定方法は資格を有する人物が実施し、またサンプルの分析は認定を受けた研究所で行う必要があります。

推奨するエアモニタリング法の情報源の例としては、下記に示されている。または製造元に連絡する。さらに国内規定の方法を利用する。

National Institute of Occupational Safety and Health (NIOSH), USA: Manual of Analytical Methods <http://www.cdc.gov/niosh/>

Occupational Safety and Health Administration (OSHA), USA: Sampling and Analytical Methods <http://www.osha.gov/>

Health and Safety Executive (HSE), UK: Methods for the Determination of Hazardous Substances <http://www.hse.gov.uk/>

Institut für Arbeitsschutz Deutschen Gesetzlichen Unfallversicherung (IFA), Germany. <http://www.dguv.de/inhalt/index.jsp>

L'Institut National de Recherche et de Sécurité, (INRS), France <http://www.inrs.fr/accueil>

労働者の健康障害を防止するため化学物質の濃度基準値とその適用方法などを定めました (mhlw.go.jp)

保護対策: 保護具 (PPE) は、推奨される国家規格を満たさなければならない。保護具 (PPE) 供給業者に問い合わせること。

個人用保護具の記号



眼、顔面の保護具

材料取扱い時に飛沫が眼に入る可能性がある場合には眼用の保護装具を用いることが推奨される



ZF LifeGuard Fluid 9

手の保護具

製品に手を触れる可能性がある場合、関連する基準（たとえば欧州のEN374、米国のF739）で承認された、以下の素材で作られた手袋を使用することにより、適切な化学防護ができる。PVC、ネオプレンまたはニトリルゴム手袋。手袋の適合性および耐久性は、接触の頻度や期間、手袋の素材の耐薬品性、手袋の厚さ、使用者の器用さなどの利用状況により異なる。常に手袋販売業者の意見を求めること。汚染された手袋は交換すること。個人的衛生を維持することは、手の効果的なケアに重要な要素です。手袋は清潔な手に着用してください。手袋を使用したあとは、手は、洗浄して完全に乾燥させる必要があります。芳香剤を加えていないモイスチャライザーを使用することを推奨します。

連続的に接触する場合は、破過時間が240分以上の手袋を着用してください。(破過時間が480分以上の手袋がある場合は、そちらを着用してください)。短時間/飛沫の保護に使用する場合も、上記の手袋を着用してください。ただし、この保護レベルを備えた手袋は入手できない可能性があるため、その場合は、適切なメンテナンスと交換が行われていれば、破過時間の短い手袋で代替することが可能です。手袋の耐薬品性は、素材の組成によるため、手袋の厚みから耐性の有無を的確に判断することはできません。手袋の厚みは、メーカーやモデルによって異なりますが、通常 0.35 mm 以上のものを着用してください。

皮膚及び身体の保護具

皮膚保護具は、標準的な作業着を超えたものは通常必要とされません
耐薬品性グローブの着用を奨励する。

呼吸用保護具

通常使用条件下では呼吸用保護具は不要である。

優良労働衛生規範に則り、物質を吸い込まないように予防措置をとること。

技術管理により作業環境濃度が作業員の健康を保護するのに十分なレベルで維持されていない場合、特定の使用条件に適合し、且つ関連する法規を満たすのに適した呼吸用保護具を選定すること。

呼吸用保護具提供者に問い合わせる。

空気フィルタ付呼吸器が適している場合、適切なマスクとフィルタの組み合わせを選ぶ。

有機ガス、蒸気および粒子の結合に適したフィルターを選択してください [タイプA / タイプPの沸点 > 65°C (149°F)]。

熱の危険

非該当

環境暴露のコントロール

関連する環境保護法の要件を満たすべく適切な対策を講じる必要があります。第6章に記載の勧告に従い、環境汚染を回避してください。必要に応じて、未溶解物質が廃水に放出されないようにします。廃水は、地表水に放出する前に、公共処理場または産業廃水処理場で処理する必要があります。蒸発物質を含む排気の実環境への放出に関しては、揮発性物質の排出規制に関する国内指針を遵守しなければならない。



ZF LifeGuard Fluid 9

項目9: 物理的及び化学的性質

基本的な物理学および化学的特性に関する情報

物理的状态

液体

色

青緑色。

臭い

微量の炭化水素

融点・凝固点

データがありません

沸点又は初留点及び沸点範囲

> 280 °C / 536 °F推定値

可燃性

非該当 [固体、気体];

引火性とは分類されませんが、燃焼します。[液体]

爆発下限界及び爆発上限界 / 可燃限界

代表値 1 %(V);

代表値 10 %(V)

引火点

206 °C / 403 °F

メソッド

ISO 2592

自然発火点

> 320 °C / 608 °F

分解温度

データがありません

pH

非該当

動粘性率

26 mm²/s (40.0 °C / 104.0 °F); 方法: ASTM D445;

26 mm²/s (40.0 °C / 104.0 °F); 方法: ISO 3104;

5.4 - 5.8 mm²/s (100 °C / 212 °F); 方法: ASTM D445;

5.6 mm²/s (100 °C / 212 °F); 方法: ISO 3014



ZF LifeGuard Fluid 9

溶解度

データがありません

水溶性

無視できるほど僅か

n-オクタノール / 水分配係数 (log値)

log Pow: > 6 (類似製品に関する情報に基づく)

蒸気圧

< 0.5 Pa (20 °C / 68 °F) 推定値

密度及び / 又は相対密度

846 kg/m³ (15.0 °C / 59.0 °F)

メソッド

ISO 12185

相対密度

0.846 - 0.852 (15 °C / 59 °F)

蒸気の相対密度

> 1推定値

爆発性の特性

国際規制: 区分外

粒子特性

データがありません

その他の情報

流動点 -42 °C / -44 °F [方法: ISO (国際標準化機構) 3016]

伝導度: この素材は、静電気を蓄積しやすい性質ではないと考えられます。

項目10: 安定性及び反応性

反応性

この製品は、以下の項の記載内容以外の反応危険性は引き起こしません。

化学的安定性

安定している。

危険有害反応可能性

強酸化剤と反応する。



ZF LifeGuard Fluid 9

避けるべき条件

極端な温度と直射日光。

混触危険物質

強酸化剤。

危険有害な分解生成物

指示通りに保管または使用した場合は、分解することはない。

項目11: 有害性情報

規毒物学的作用に関する情報

情報は、同種の製品の成分および毒物検査データを基づいている。特に記述がない限り、データは本製品に関する包括的なものであり、個々の成分に関するものではない。

急性毒性

利用可能なデータに基づき、分類条件を満たしていません。

製品名/物質名 CAS / ECなし。	投与記述子	値/用量	暴露経路	試験動物	備考
ZF LifeGuard Fluid 9 -	LD50	> 5,000 mg/kg	オーラル	ラット	低毒性
ZF LifeGuard Fluid 9 -	LD50	> 5,000 mg/kg	皮膚の	ウサギ	低毒性

皮膚腐食性 / 刺激性

皮膚に若干不快感がある。、適切に洗浄せずに長期または繰り返し皮膚と接触させると、皮膚の毛穴を塞ぎ、油性ざ瘡および毛囊炎などの障害をもたらすことがあります。、入手可能なデータに基づくと分類基準は満たされない。

入手可能なデータに基づくと分類基準は満たされない。

眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性

目に若干、不快感がある。、入手可能なデータに基づくと分類基準は満たされない。

入手可能なデータに基づくと分類基準は満たされない。

呼吸器または皮膚感受性

皮膚感作物質ではない。

入手可能なデータに基づくと分類基準は満たされない。



ZF LifeGuard Fluid 9

製品名/物質名 CAS / ECなし。	結果
アルキルアセトアミド -	実験データによると、本製品内の皮膚感作を招く可能性のある成分の濃度は、皮膚感作を引き起こす原因にはなりません。感受性が高いヒトでは、アレルギー性皮膚反応が発現することがあります。
カルシウムスルホネート -	感受性が高いヒトでは、アレルギー性皮膚反応が発現することがあります。

生殖細胞変異原性

入手可能なデータに基づく分類基準は満たされない。

発がん性

入手可能なデータに基づく分類基準は満たされない。

製品名/物質名 CAS / ECなし。	結果
高度に精製された鉱物油 -	発癌性の分類なし

生殖毒性

発生毒物ではない。、生殖機能を損なわない。、入手可能なデータに基づく分類基準は満たされない。

入手可能なデータに基づく分類基準は満たされない。

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

入手可能なデータに基づく分類基準は満たされない。

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

入手可能なデータに基づく分類基準は満たされない。

誤えん有害性

入手可能なデータに基づく分類基準は満たされない。

暴露の経路:

以下の誤った摂取により曝露されるにも関わらず、皮膚及び目の接触が基本的な曝露のルートである



ZF LifeGuard Fluid 9

その他の危険有害性に関する情報

その他の情報

使用済みオイルは、使用中に蓄積した有害な不純物を含んでいる可能性があります。このような不純物の濃度は、使用度により異なり、廃棄すると健康や環境に有害な場合があります。、使用済みオイルはすべて、取り扱いに注意し、可能なかぎり皮膚と接触しないようにしてください。

備考: 呼吸器系に軽度の刺激性。

項目12: 環境影響情報

毒性

急性毒性

特にこの製品に関する環境毒物学的データは得られていません。

記載した情報は、類似製品や成分および環境毒物に関する知識に基づいています。

特に記述がない限り、データは本製品に関する包括的なものであり、個々の成分に関するものではない。

入手可能なデータに基づく分類基準は満たされない。

急性魚毒性

製品名/物質名 CAS / ECなし。	測定タイプ	値/結果	種	発言
ZF LifeGuard Fluid 9 -	LL/EL/IL50	>10 <= 100 mg/l	魚	有害

急性藻類毒性

製品名/物質名 CAS / ECなし。	測定タイプ	値/結果	種	発言
ZF LifeGuard Fluid 9 -	LL/EL/IL50	>10 <= 100 mg/l	藻/水生植物	有害

急性毒性甲殻類

製品名/物質名 CAS / ECなし。	測定タイプ	値/結果	種	発言
ZF LifeGuard Fluid 9 -	LL/EL/IL50	>10 <= 100 mg/l	甲殻類	有害



ZF LifeGuard Fluid 9

微生物/肉眼的生物毒性

製品名/物質名 CAS / ECなし。	測定タイプ	値/結果	種	発言
ZF LifeGuard Fluid 9 -	LL/EL/IL50	>10 <= 100 mg/l	微生物に	有害

慢性毒性

入手可能なデータに基づく分類基準は満たされない。

残留性・分解性

備考: 易分解性ではない。、主な組成物は本質的に生分解性であるが、環境に残存する可能性のある成分を含有する。、IMOの基準では難分解性である。、International Oil Pollution Compensation Fund (IOPCF: 国際油濁補償基金)の定義:「難分解性油とは、ASTM メソッドD-86/78およびそれ以降のバージョンを適用した結果、船積み時点で、(a) 炭化水素留分が体積で50% 以上で 蒸留温度が340°C (645°F)、および (b) 炭化水素留分が体積で 95% 以上で蒸留 温度が 370°C (700°F) の油を指すものとする。」

生体蓄積性

生態蓄積性: 備考: 潜在的蓄積性を有する成分を含有する。

n-オクタノール / 水分配係数 (log 値) : log Pow: > 6備考: (類似製品に関する情報に基く)

土壤中の移動性

モビリティ

ほとんどの環境条件下で液体です。、土壤中に浸透すると、土壤粒子に吸着して移動しなくなります。
備考: 水に浮かぶ。

PBTおよびvPvB評価の結果

データがありません

内分泌かく乱性

データがありません

その他の副作用

生態系に関する追加情報: オゾン破壊係数、光化学オゾン生成係数、地球温暖化係数はありません。
、本製品は不揮発性成分の混合物であり、通常の使用条件下では空气中に大量に放出されることはありません。

低溶解性の混合物です。、水生生物のファウリングを引き起こします。

その他

オゾン層への有害性 非該当



ZF LifeGuard Fluid 9

項目13: 廃棄上の注意

廃棄物処理法

廃棄上の注意

出来れば、再生利用または再使用すること。

廃棄物排出者には、適用される規則に従い適切に廃棄物を分類し処分する方法を用いているかどうかを判断するため、生成された物質の毒性と物質特性を判断する責任がある。

環境、下水管または水路へ廃棄しないこと。

廃棄物で土壌や地下水を汚染したり、環境を破壊したりしてはなりません。

製品の廃棄物、流出物、または使用済み製品は、危険p棄物です。

漏出やタンク清掃から生じる廃棄物は、関連法規を遵守し、免許を有する専門の収集業者または請負業者に依頼することが好ましく、適切に処分してください。収集業者または請負業者が適格性を有することを事前に確認してください。

タンクの水は地表に放出して廃棄しないでください。廃棄すると土壌と地下水を汚染します。

MARPOL - 船舶による汚染の防止のための国際条約 (MARPOL 73/78) は、船舶からの汚染物質を抑制する技術的側面を提供します。

パッケージング

現行規定に従って廃棄する。公認の廃棄物収集業者または契約業者に引き渡すのが望ましい。廃棄物収集業者または契約業者は、資格を持つことを事前に証明しなければならない。廃棄処分は、地域、国、地方の適切な法律及び条例に従うべきである。

その他

廃棄処分は、地域、国、地方の適切な法律及び条例に従うべきである。

項目 14: 輸送上の注意

国連番号

規制対象外

品名 (国連輸送名)

ADR / RID / AND正式品名

規制対象外

IMDGの適切な出荷名

規制対象外

IATA proper shipping name

規制対象外



ZF LifeGuard Fluid 9

国連分類（輸送における危険有害性クラス）

ラベル

規制対象外

ADR / RIDクラス

規制対象外

IMDGクラス

規制対象外

IATAクラス

規制対象外

ADNクラス

規制対象外

容器等級

規制対象外

海洋汚染物質

いいえ

IMDG海洋汚染物質

いいえ

使用者のための特別な予防措置

使用者が知っておくべき特別な注意事項や、輸送に関して法令順守が必要な事項については、第7項の取扱及び保管上の注意を参照のこと。

MARPOL73/78附属書II及び IBCコードによるばら積み輸送される液体物質

大量海上輸送では、MARPOL規則が適用されます。

項目15: 適用法令

物質または混合物ごとに個別に関連する、安全、健康および環境に関する規則/法律

EU規制

非該当



ZF LifeGuard Fluid 9

国の規制

消防法: 第四類, 第三石油類, 非水溶性液体, (2000 リットル), 危険等級III

化審法: 優先評価化学物質

2, 6 - ジ - t e r t - ブチル - 4 - メチルフェノール: 64

ジプロピレングリコール: 240

1, 1' - オキシジ (プロパン - 2 - オール) : 240

労働安全衛生法:

製造等が禁止される有害物: 非該当

製造の許可を受けるべき有害物: 非該当

健康障害防止指針公表物質: 非該当

変異原性の認められた化学物質 (既存化学物質) : 非該当

変異原性の認められた化学物質 (新規届出化学物質): 非該当

名称等を通知すべき危険物及び有害物: 法第57条の2 (則34条の2 別表2)

鉱油: 168 [含有量 (%): >=90 - <=100]

名称等を表示すべき危険物及び有害物: 法第57条 (則30条 別表2)

鉱油 : 168

鉱油 168 特定化学物質障害予防規則: 非該当

有機溶剤中毒予防規則: 非該当

労働安全衛生法施行令 - 別表第一 (危険物): 非該当

毒物及び劇物取締法: 非該当

化学物質排出把握管理促進法: 非該当

船舶安全法: 非該当

航空法: 非該当

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律: 海洋汚染物質には該当しない

水質汚濁防止法: 油分排出規則 (法第2条5項、施行令第3条の4)

廃棄物の処理及び清掃に関する法律: 産業廃棄物

その他の条件、制限および法的規制

この製品の成分について各国インベントリーへの記載情報:

US TSCA : 全成分リストアップされている。

JP ENCS : 全成分リストアップされている。

化学物質安全性評価

データがありません



ZF LifeGuard Fluid 9

項目16: その他の情報

フレーズの意味

Aquatic Acute 3 - 水生環境有害性 短期（急性）区分3
Asp. Tox. 1 - 誤えん有害性 区分1
Skin Sens. 1B - 皮膚感作性 区分1A
Acute Tox. 4 - oral - 急性毒性（経口）区分4
Skin Corr. 1C - 皮膚腐食性 区分1B
Aquatic Acute 1 - 水生環境有害性 短期（急性）区分1
Aquatic Chronic 1 - 水生環境有害性 長期（慢性）区分1
H302 飲み込むと有害
H304 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H400 水生生物に非常に強い毒性
H402 水生生物に有害
H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

その他

追加情報

研修アドバイス：操作員に十分な情報、指示、および教育を与える。

免責事項：この安全データシート（以下「SDS」といいます。）に記載されている情報は、データシートの作成日現在において当社が保有している知見に基づき作成されたものです。SDSは対象製品の安全な取扱い、使用、加工、保管、輸送、漏洩時および廃棄に関する指針（ガイダンス）としてのご使用のみを意図して発行されるものであり、対象製品について明示、黙示を問わず何らかの保証を行うものでも、また品質規格を定めるものでもありません。また、SDSに記載された情報は、指定された特定の製品の単独利用の場合におけるものであり、SDSに明示的に記載された場合を除き、指定外の物質との併用や指定外の工程での利用において、対象製品がSDSに記載された情報と合致することを何ら保証するものでもありません。